

NPO 法人 ^{しんでん} 新田むらづくり運営委員会



新田集落全域

新田集落は、自然豊かな里山を有するところである。しかし、集落の高齢化、人口の減少、自治力の低下などが問題となっていたため、様々な検討を重ね、平成 12 年に全国で初めて集落全戸が参加する NPO 法人「新田むらづくり運営委員会」を設立した。農林業体験の受け入れなど都市農村交流事業を柱として、地域振興や古くから新田集落に伝わる人形浄瑠璃などの伝統文化の継承に取り組んでいる。



^{ちづちよう} 鳥取県智頭町



田んぼの学校「田植」

〔体験学習と教育〕

平成 2 年から、大阪いずみ市民生協との交流事業をスタートさせ、今では大阪や岡山など近郊都市から多くの市民が農業体験（田んぼの学校）、林業体験に訪れている。他にも農地付きのロッジ「トンボの見える家」を整備し、農業体験を希望する家族に貸し出すなど、交流事業として様々な取り組みを行っている。（田んぼの学校は H23 から休止）

地域住民の視野を広げることを目的に、月 1 回様々な分野の講師を招いて「新田カルチャー講座」を開催している。

〔伝統文化の継承〕

「新田人形浄瑠璃」は、幕末から明治にかけて地区の青年たちによって始められた。昭和 20 年代には、文楽の人形遣いで人間国宝となった桐竹紋十郎の指導を受け、「相生文楽」と命名されている。今も貴重な人形を保存するとともに、住民全員で舞台の練習をしている。宿泊施設「人形浄瑠璃の館」などで上演されているほか、大阪や岡山、徳島など各地で上演を行っている。

〔景観の保全、保健休養〕

森林、棚田、河川等「心のふるさと」としての景観整備、保全を行っている。平成 21 年には(財)森林文化協会による「日本の里 100 選」にも選定され、森林環境に関する普及啓発活動を続けている。



田んぼの学校「山野草観察」



人形浄瑠璃の上演



芝居上演「太功記」



人形浄瑠璃の館